

新宿パークタワー 2018 Winter

クリスマスコンサート

新宿パークタワーが贈る、
冬のアトリウムコンサート。

イルミネーションに彩られる空間で、
華やかな管弦楽の音色をお楽しみください。

ウェーバー：歌劇《魔弾の射手》序曲

Carl Maria von Weber : »Der Freischütz« overture

ブラームス：交響曲第1番 ハ短調 op.68

Johannes Brahms : Symphony No.1 in C minor op.68

指揮：澤橋 淳
Conductor : Jun Sawahashi

コンサートマスター：七澤清貴
Concertmaster : Kiyotaka Nanasawa

セブン・ブリッジ・オーケストラ
Seven Bridges Orchestra



2018年

12/17 [月]

昼の部 / 12:00 ~ 13:00

夜の部 / 18:00 ~ 19:00

入場無料

Weber

Brahms

主催：東京ガス都市開発株式会社 SHINJUKU PARK TOWER & TOKYO

■会場 新宿パークタワー 1F アトリウム

■お問い合わせ

新宿パークタワー総合案内

03-5322-6640(受付時間 8:30~17:30)

東京都新宿区西新宿三丁目7番1号

www.shinjukuparktower.com

■アクセス

JR「新宿」駅南口から徒歩 約12分
西口エルタワー前より約10分間隔で
無料シャトルバス運行



新宿パークタワー クリスマスコンサート

★ 2018 Winter

2018年 12/17 [月]

昼の部 / 12:00 ~ 13:00 夜の部 / 18:00 ~ 19:00 入場無料

主催: 東京ガス都市開発株式会社 会場: 新宿パークタワー 1階 アトリウム

〈曲目解説〉

■ ウエーバー: 歌劇《魔弾の射手》序曲

カール・マリア・フォン・ウェーバー(1786-1826)は、ドイツのハンブルクより更に北のオイティンで生まれました。24歳年上の従姉にモーツアルトの妻、コンスタンチンがいます。35歳の時に完成させたオペラがこの《魔弾の射手》で、1821年にウェーバー自ら指揮をして初演し、ドイツ・ロマン派のオペラを切り拓いた作品として大成功を収めました。序曲はオペラの曲中の素材を使って構成され、冒頭の4本のホルンによって奏されるメロディは、讃美歌「主よ、御手もて」としても知られています。

物語の舞台は、17世紀中頃のボヘミアの森。射撃の名手マックスは、恋人アガーテの父から結婚の許しを得るために、射撃大会で優勝しなくてはならないにスランプ中。
それを見たライバルのガスバールが画策し、マックスは唆されて、7発中6発は狙った場所に命中するが、残りの1発は悪魔の望むところに命中してしまうという魔弾を手に入れます。マックスは大会で好成績を収めていきますが、鳩を狙ったはずの最後の1発が、ガスバールに命中してしまうという悲劇が起ります。大会を取り仕切る領主はマックスを問い合わせて、事実が明るみに出ることになりますが、森の隠者が現れて彼の罪をとりなし、1年の執行猶予後にマックスとアガーテの結婚が許された、という物語です。

■ ブラームス: 交響曲第1番 ハ短調 op.68

ヨハネス・ Brahms (1833-1897) は、ドイツのハンブルクで生まれました。20歳の時にシューマンと出会い、シューマンは彼の音楽に感銘を受け、自ら創刊した雑誌にブラームスを称賛する批評を載せます。そのおかげでブラームスの名前は広く知られるようになりました。ところがその数か月後、シューマンは精神障害のためライン河に投げ自殺をはかり、そのまま精神病院へ入院してしまいます。ブラームスは、尊敬するシューマンとその妻クララの家庭を助けるべく奔走し、シューマンが亡くなった後もクララとは生涯に渡り親交を結ぶことになります。

さて、ブラームスが22歳の時、ハンブルクで聴いたシューマンの劇音楽《マンフレッド》序曲に衝撃を受け、交響曲を書く決心をします。ベートーヴェンの偉大な交響曲を超えてはならないと考え、完成したのは21年後の1876年、ブラームスが43歳の時です。

第1楽章: Un poco sostenuto - Allegro

ハ短調 6/8拍子。序奏部はハ音でティンパニ、コントラバス、コントラファゴットが力強く低音を支え、弦楽器が上行し、管楽器が下行する二つのメロディによる緊張感溢れる劇的な音楽ではじまります。主部に入ると情熱的なテーマと穏やかなテーマが姿を少しずつ変えながらクライマックスを築いていきます。

第2楽章: Andante sostenuto

ホ長調 3/4拍子。弦楽器による優しいメロディが美しい緩徐楽章。ハーモニーが作り出す音楽の陰影の中で、オーボエ、クラリネット、ホルン、ヴァイオリンのソロが印象深いメロディを次々に歌います。

第3楽章: Un poco allegretto e grazioso

変イ長調 2/4拍子。クラリネットの優雅で抒情的なメロディで始まります。中間部では「運命の動機」のリズムが執拗に繰り返され曲が盛り上がります。

第4楽章: Adagio - Più andante - Allegro non troppo, ma con brio - Più allegro

ハ短調 - ハ長調 4/4拍子。暗く重苦しい雲囲気の中で序奏がはじまります。途中、ティンパニが音楽を遮ると、アルブスの山間から陽が差し込むように、アルペンホルンが聞こえてきます。このメロディは、1868年、ブラームスがクララ・シューマンの誕生日プレゼントとして送った「高い山から、深い谷から、君に何千回もお祝いの言葉を述べます」という手紙に添えられたものです。

そして、トロンボーンによるコラールの後、弦楽器が「歓喜の歌」を朗々と歌う感動的な楽章です。

Weber
Brahms



指揮: 澤橋 淳

Conductor: Jun Sawahashi

東京学芸大学大学院修士課程(音楽学)修了。これまで指揮を崎田俊治、村方千之、湯浅勇治、ハンス・グラーフ、アンドレイ・アニハーノフの各氏に師事。2009年サンクト・ペテルブルク国立アカデミー交響楽団を指揮。2007年に七澤清貴氏とともにセブン・ブリッジ・オーケストラを結成し、新宿パークタワーでの公演は今回で17回目を迎える。



コンサートマスター: 七澤 清貴

Concertmaster: Kiyotaka Nanasawa

東京藝術大学付属音楽高校、同藝術大学、パリ・エコールノルマルを全て首席で卒業。多久興、海野義雄、ブローダス・アール、ルイ・グレーラー、マックス・ロスタル、フォンタナローザの各氏に師事。スイスにてロスター・コンクール第1位。スイスエール市立交響楽団で3年間コンサートマスターを務め、帰国後、神奈川フィルハーモニー管弦楽団で20年間コンサートマスターを務める。ソロ、室内楽でも全国的に活躍。アンサンブル・ソノール代表。

セブン・ブリッジ・オーケストラ

Seven Bridges Orchestra

クラシック音楽をより多くの方に伝えるために2007年に結成。東京オペラシティや新宿パークタワーのアトリウムコンサートに出演。国内外で活躍する若き少数精銳メンバーでクオリティの高い音楽を目指す。

※1970年代、淀橋浄水場跡地に7棟の超高層ビルが建設されたことで発展してきた西新宿は、その後も次々とビルが建設され、現在は日本を代表する超高層ビルの街となりました。このオーケストラ名の由来は、西新宿のさらなる活性化のために、ビルのアトリウムを中心にオーケストラが巡回演奏することで、人の交流の橋渡しをしたいという思いから「セブン・ブリッジ」と名付けられました。